



Title	近代日本の地方機械工業：農業機械工業史研究
Author(s)	岡部，桂史
Citation	大阪大学，2005，博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/46696
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 ＜a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed >大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名	岡 部 桂 史
博士の専攻分野の名称	博 士 (経済学)
学 位 記 番 号	第 19854 号
学 位 授 与 年 月 日	平成 17 年 12 月 26 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 4 条第 1 項該当 経済学研究科日本経済・経営専攻
学 位 論 文 名	近代日本の地方機械工業—農業機械工業史研究—
論 文 審 査 委 員	(主査) 教 授 澤 井 実 (副査) 教 授 宮 本 又 郎 教 授 阿 部 武 司

論 文 内 容 の 要 旨

本論文の課題は、明治期から太平洋戦争期にいたる農業機械工業の発展過程の検討を通して、近代日本における地方機械工業の歴史的意義を問うことである。

本論文は、序章、第 1～5 章、終章から構成されている。序章「課題と視角」では、農業機械工業史をめぐる研究史の検討を踏まえたうえで、分析視点として、第 1 に製造業者、流通・販売業者といった農業機械工業をめぐる各主体の動向、第 2 に共進会・博覧会、農事試験場といった農業機械工業をめぐる経済組織・制度の役割・意義、第 3 に農業機械工業に対する戦時経済統制の影響、第 4 に企業家史的アプローチの意義が説明され、それらを総合する形で農業機械工業史の全体像を提示するとされる。

第 1 章「日本農業機械工業の市場構造」では、石油発動機と電動機に大別される農業用原動機の地域別普及状況、作業機械の内需、輸移出、輸入、生産状況といった農業機械工業史をめぐる基本的動向が詳細に検討され、農業機械と農業の独特の関係、すなわち農業の地域性に強く規定された農業機械のあり方、およびユーザーである農家にとってのビフォーサービス、アフターサービスの重要性が指摘される。第 2 章「近代農機具工業の成立—1890 年代～1910 年代—」では、最初に松山犁製作所の経営発展のプロセスが創業者松山原造の役割、販路の拡大、資金調達、生産組織のあり方に即して詳細に検討され、続いて第 1 次世界大戦期の農機具工業の動向が発動機と作業機械に分けて検討されている。

第 3 章「戦間期日本農業機械工業の展開」では、小型石油発動機の国産化過程、久保田鉄工所などに代表される大規模工場の動向、中小規模工場の推移、「発動機王国岡山」の成立状況、作業機械の生産状況、輸移出入と輸入商社の活動、1920 年代から 30 年代にかけての流通機構の変化、すなわち農具流通網に支えられた農業機械の販売から作業機械と発動機のセット販売と農業機械専門販売店の登場によって特徴づけられる流通への変化のプロセスが検討される。第 4 章「戦時経済統制の進展と農業機械工業」では、戦時期の農業機械工業が概観され、次に農業機械に対する戦時統制の段階的推移が 5 期にわけて検討される。さらに主要企業から野鍛冶にまでいたる戦時下の企業経営の実情が考察されている。

第 5 章「農業機械工業をめぐる制度的諸条件」では農業機械の発展を支えた技術者や農林技官の活動・役割が検討され、続いて当該産業の発展を支えた制度的諸条件として、共進会、農事試験場、農会の役割が詳細な資料的検討にもとづいて明らかにされている。終章「総括」では、これまでの議論が要約されたうえで、最後に、個人あるいは単

独の中小零細製造業者では突破できないような諸制約を試験場や共進会といった組織・制度を核とした「ネットワーク型研究開発」によって乗り越えていった、そのダイナミズムこそが地方機械工業たる農業機械工業の発展要因であり、多様な内実を有する日本の工業化の重要な一側面を体現しているとされる。

論文審査の結果の要旨

本論文の大きな貢献は、研究史の乏しい農業機械工業史について、全国に散在する資料を博捜することによって、生産、市場、流通、企業経営、経営者と技術者の役割、共進会・農事試験場・農会の機能、戦時統制の影響といった諸テーマを詳細に検討し、当該工業の明治期から戦時期にいたる発展のプロセスの全体像を描き出した点にある。本論文は、また地方機械工業の発展要因を詳細に明らかにしたという点でも機械工業史研究の前進に大きく寄与した。大規模工場が、また都市に立地する諸工場が地方の工場に具体的にいかなる影響を与えたのかなどの点でまだ検討すべき論点が残されているが、これらはいずれも筆者の今後の課題であり、本論文は博士（経済学）の学位に十分値するものと判断する。